

## 第16節 ふたごの母、自転車通園をやめる

朝夕はまだ冷えるが、昼間は春の陽射しがうれしい、ここ3月の京都。  
突然ではあるが、片道1キロを超える距離にある幼稚園への通園を、往復徒歩にした。  
理由は、ふたごたちが大きくなったから……である。

私の自転車は、国産の赤い自転車。普通のよりもちょっとだけ上等で、3段階ではあるが変速機がついている。結構見かけるようになったモーター付き自転車や、前輪のかごが大きく、こどもや荷物の重心がハンドルの上にかかるようになっているタイプではない。

ふたりのこどもを乗せるために、ハンドルにひっかける形でひとつと、後ろの荷台の上に固定するタイプでひとつ、合計ふたり分の座席を後づけした。幼稚園に駐輪されている自転車や、街ゆくこども同乗の自転車を観察していると、まだ、このタイプが90%以上を占めているようである。

少し前から、いつ自転車通園をやめようかと思案はしていた。自分の自転車運転技能が特に優れているとも思っていなかったし、運動神経も人並みには足りないと感じていたからだ。

後ろに乗るタイは16キロを超えているが、割合じっとして乗っていてくれるので大丈夫。問題は前に乗るリョウの体重が、“イス取り付け注意事項”に記載されている15キロに、だんだん近づいてきていることだった。ハンドルを切るのに明らかに支障をきたしていた。

自転車の前後に、こどもをふたり乗せて走る場合、前に乗せる子の体重が安全走行を左右するということがはっきりすると、余計に不安感が増したのだ。

かく言う私、中学3年生から高校3年生までの4年間、実は自転車通学をしていた。一度だけ、大通りの信号を渡る時に、スリップして、前かごの教科書やら筆箱やらを、横断歩道に撒き散らすくらいにコケたことがあったが、それ以降、横倒しになったこともなく、結構イケてる自転車愛好家であった。

しかし、今は、寄る年波には勝てないのと、こどもを産んで昔の腹筋には戻っていないのに合わせて、ふたごを産んで4年を過ぎてもまだ、骨盤がカクカクして頼りない状態なので、重い荷物を前後に乗せて、ペダルを踏み込むのは辛いと感じはじめていた。

そして、決定的に自転車通園をやめよう！と思ったのは、この冬の寒さだった。

できることなら春まで冬眠していたい願うほど、寒さに弱い私であるので、風を切って自転車を走らせるのは拷問に近い。体はこわばっているのに、なおのこと運転が不安になる。

で、3学期を3日程、自転車通園をやってみて、やっぱり止めよう！と決心した。

それは、はじめて氷が張った朝。絶対に、今朝ふたりを自転車に乗せて走るのは危険！という日に徒歩で登園し、翌日も雪がちらついているので徒歩を強制した。ちょっとおバカな我が家のふたごたちは徒歩通園3日目にして、

「おかあさん、今日も歩いて行くのぉ？」と聞いたので

「そう！」と、すんなり徒歩通園に切り替えられた。

幼稚園が近くなると、つぎつぎに自転車に乗ったお友達に追い越される。お天気なのに歩いて登園している私たちを見て、誰もかれもが口々に言うことは、

「自転車どうしたん？」

つまり、私の自転車はパンクしたのか？壊れたのか？と心配してくれているのだ。

「うん、もうこの子ら重たいし、止めよかなあ、と思てんねん。」

「ふたごちゃんやしなあ……そやなあ」

「うち、車ないし、歩いてくれへんかったら、リヤカー買うしかないねん」

と、まあ、こんな会話を何人ものおかあさんとした。

おかあさんがたは、

「偉いなあ、リョウちゃん、タイちゃん、がんばって歩いてるなあ！」と、感心しつつ励まして下さるので、彼らは調子づき、いい気になったまま徒歩通園に切り替えて2ヶ月になろうとしている。

さて、ふたごたちと手をつないで、ほほえましい登園風景……と言いたいところだが、そう簡単にはいかない。

ふたりはひとりずつ、歩きながらもおかあさんに話を聞いてもらいたいし、別々の歌を大声で歌ったりもする。横を通る車に一喜一憂し、やれ靴が脱げたのだの、こっちの道から行きたいだの……まったくもって始末が悪い。

帰り道は幼稚園で遊び疲れているので、すぐに

「タクシー乗ろ！」

「地下鉄で帰りたい！」

「アメちゃんちょうだい！」

「幼稚園でコケて血が出たし歩けへん！」

ありとあらゆる手段で、楽をしようとふっかける。そんなこんなに軽く乗るわけにはいかないのです、

「あそこまで行ったらパトカーが見られるかも？」

「雨がザアザア降ったら地下鉄乗るな！」

「お家に着いたらアメちゃんあげる」

と、対抗して切り抜ける。

行きも帰りもお茶は持って歩き、バンドエイドは大中小そろっている。実はアメちゃん  
はいつも持っているが、これは最後の切り札。

歩いているといろんな事があるもので、通園路の家々が防火のために備えている赤い消  
火用バケツに、氷が張っていた朝は、すべてのバケツに手をつっこみ、氷があるのを確認  
するので、いつもの3倍も時間がかかってしまった。当然、幼稚園は遅刻。

自転車で走ってはい見えなかったものが見えて、彼らはとても嬉しいらしい。

私はというと、寒いとはいえ自転車で走るより、歩いている方が温かく、まんざらでも  
ない。歩きながら朝の青空を少しながめることだってできる。

しかし、ふたりに両手をふさがれているので、自由には歩けない。ヤツらは歩きながら  
好みの車が行き過ぎると、大きく振り向くので、こっちは不意に腕を引っ張られる。信号  
がピカピカするから、という理由で横断歩道を走って渡りたがるし、1日に1回はどちら  
かがコケる。その間、手はつながれたままなので、私はいつも、ほんの少しドキドキして  
いる。

毎日歩くことになったので、ダイエットになるかな、と密かな期待はあるけれど、こん  
なふうにウォーキング・ダイエットにしては無理すぎる姿勢で歩いているので、効果は如  
何ほどか？

めずらしくどちらもコケずに、歌も歌わず、犬のいる家はどこやったっけ？と楽しそう  
な日は、両方の手に握られた、少々厚みの違う小さな手の感触を楽しみながら歩く事がで  
きる。こういう時が至福の時かな。

手袋にヒモを縫い付けてジャケットの袖に通し、片一方が無くなった！てなことになら  
ないようにしているのだが、先日、袖口からぶら下がった手袋をグルグル廻しながら、

「ウーウーウー、ピーポーピーポー！！！」を絶叫したかと思うと、急に声も歩くのも  
やめて、

「救急車とまったあ！」と叫び、道行く人に笑われた時には、真剣にリヤカー通園を考  
えた。

荷車の内側に子ども用のいす2つあって、そのいすにすわったヤツらが不意に立たない  
ように固定用のベルトが付いていて……しかも！荷物が無くなれば荷台は1分でコンパクト  
に折りたたみ、前かごに収納できる！！なんていう、“ふたご通園用リヤカー付き自転  
車”が発明されないだろうか？そう、ふたごのママが颯爽と走れる蛍光黄色がいいな！

それでも、おかあさんをつないでもらえる方の手には手袋をはめずに、

「こっちは手袋しいひんでもあったかいもんな！」

なんて、愛らしいことを言うこの子たちには勝てないかな……。